

令和5年度 美作市立美作第一小学校 学校評価書

(A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を下回った)

学校経営 目標等	具体的計画	今年度の達成基準 数値目標は4段階・上位評価(●のみ最上位評価)	自己評価(最終)		分析・改善方策	学校関係者
			達成状況【昨年】	評価		
1 学び合う児童の育成	主体的な学びに重点を置いた授業改善 ・学習規律「一ススタンダード」の徹底 ・振り返りを書く ・全国学力テスト問題やそれらの分析結果を生かした補充学習 ・自学ノート校内掲示	●対話を通じて、協働的に課題解決しようとする児童が50%以上。(児童、職員アンケート、保護者30%) ●友だちの話し合いで、自分の考えが広がったり、深まったりした児童が50%以上。(児童アンケート) ●自分で学習の振り返りを書くことができる児童が、70%以上。(児童アンケート) ●到達確認テストの全学年実施 ●全国・県学力テスト過去問題や類似問題への継続的取り組み	児-③「友だちと話し合い聞いたり」53.1(86.2)% 【54.2(88.4)%】 職-③「対話による課題解決」15.8(84.2)% 【16.7(77.8)%】 保-③「対話で友だちと協力」35.2(92.6)%	C	・校内研修において考えを広める・深める「話し合いの具体的な児童を出し合い、学年に応じたゴールイメージを共有することができた」 ・目標とする6年の姿を【話し合い目的を持ち、自分から「話し合いたい」と思える児童】と設定しすることができた。 ・今後、各学年においての取組についての実践交流や話し合いしたいと思えるしかりについて、より具体的に校内研修において協議していく必要がある。	・学級閉鎖でのクローズドの授業配信等、今後も必要に応じてクローズドICT活用に取り組みしていく。 ・児童が本に親しむために、すぐに手に取れるように、図書室ではなく各教室で、できるだけ購入して、新しい本があるほうがよいのではないか。
	基礎的な知識技能の定着 ・放課後補充学習(美作大学との連携協力協定)による算数の基礎定着 ・美作市算数統一検定の活用 ・計算チャレンジを実施(学期に1回)	・80%以上の児童が、新学習で立ち止まることなく計算等の処理ができる。(職員アンケート) ・勉強がわかるという回答が80%以上 ・美作市算数統一検定の結果80%以上 ・計算チャレンジテストの結果90%以上(児童アンケート)	児-⑤「すらすら計算」85%【81.6%】 職-⑤「計算処理」88.9%【68.8%】 児-⑧「勉強よくわかる」88.8%【85.3%】 職-⑧「授業内容理解」94.7%【72.2%】	A	・校内で設定した6つの非認知能力を軸に、教師が見取り声かけを行うことができつつある。また、児童も授業の終わりに振り返りが行えるようになってきている。授業を通じての理解や気付きについて書くことのできる児童も今後増やしていきたい。	
	読書量を増やす取り組み ・読書指導、読書の時間の週1回確保 ・年間の「読書目標冊数」の設定で読む読書量の増加 ・教室にミニ図書館の設置 ・調べ学習や関連読書の推進(国語、社会)	・読書に親しみ、学習に活用しているという回答が全体の70%以上。 (児童、保護者、職員アンケート) ・読書目標冊数 年間平均 低学年(1・2年)80冊以上 中学年(3・4年)60冊以上 高学年(5・6年)30冊以上	児-⑨「すすんで本」72.5%【72.6%】 保-⑦「読書」84.3%【85.7%】 年間読書冊数 低学年80冊 76%【90%】 中学年60冊 73% 高学年30冊 40%【60%】	B	・計算チャレンジにおいて、定着率の低い児童に個別指導を行い、一定の成果がみられた。	
	家庭学習の充実 ・家庭学習の手引きの見直し ・自主学習への取り組み(予習・復習中心)	・予習や自主学習(高学年)等、家庭学習の時間が増えたという回答が70%以上。 (児童、保護者アンケート)	児-⑪「家庭学習」76.3%【76.3%】 保-⑫「家庭学習」56.5%【50%】	B	・クローズドブックの活用が進んでいる。しかし、学習以外に使用する問題も起きている。「学習のための文房具」を基本に、学習以外に使用しないことを指導していく必要がある。	
2 こゝろのひとの良さを育む	あいさつ運動の実施 ・大きな声で進んであいさつ ・運営委員会による朝のあいさつ運動 ・学級での授業前後のあいさつ	・あいさつがよくできるという回答が80%以上。 (保護者アンケート) ・進んであいさつができていたという回答が80%以上。(児童アンケート)	保-⑧「あいさつ」55.2%【64%】 児-⑩「あいさつ」85.6%【84.2%】 職-⑩「すすんであいさつ」89.5%【63.1%】	B	・児童会の取組として、「朝のあいさつ運動」から「教室巡回あいさつ運動」へ変更を行った。あいさつを返すことはできているが、「自分から」「誰にでも」という部分において課題がある。	・先生が褒めることが、自己肯定感や存在感、子どもたちの価値観につながっている。 引き続き大切にしてほしい。 ・第一小の子はよくあいさつしているという地区もあれば、あまりあいさつしない地区もある。自然に言えるような関係づくりなど、学校の重点取組として取り組んでほしい。
	望ましい人間関係の育成 ・目指す非認知能力を職員で共有し、「自分や友だちには良いところがある。」と感じられるような教師や児童相互で評価する。	●自分には友達や先生から認められているよいところがあり、学校に行くことが楽しみという回答が50%以上。(児童、保護者アンケート、職員アンケートは66%) ●先生は自分がした努力(しようとした、がんばった)を認めてくれるという回答が60%以上。(児童、職員アンケートは50%)	児-⑫「学校は楽しい」54.4(82.5%)【49.5(76.9%)】 保-⑩「学校に行くことが楽しい」38(86.1%)【38.4(86.1%)】 職-⑫「学校は楽しい」42.1(94.7%)【10.5(94.7%)】 児-⑯「努力を認めてくれる」100(81.9%) 保-⑯「がんばりを認めてくれる」142(61.2%)【38.8(89.4%)】 職-⑯「努力を認めている」157(9.100%) ※(上位評価)	B	・学校として育てていきたい6つの非認知能力を設定し、特に「楽しむ力」「挑戦する力」において職員間で共有することができた。教師の意識的な声かけが増えるなど、教員間に意識が定着しつつある。 ・今後は更に効果的な声かけについての交流や協議を重ね実践につなげていく。	
	体験活動を生かした道徳教育、教育相談、積極的な生徒指導 ・学校行事、縦割り班、通学班等での活動	・友だちと仲良く協力できているという回答が90%以上。(児童アンケート) 運動会、学習発表会での学校評議員・来賓評価	児-⑭「友達と仲良く」93.8%【93.1%】 職-⑭「人権意識」88.8%【100%】	A	・校内研修において学校全体の目指すべき児童像が明確になるように検証、修正していく必要がある。また、児童と先生が仲良く力を共有し、進めていくことで、より効果があると考えている。	
	児童理解のための研修、情報交換 ・会議ごとの情報交換 ・ケース会議や校内研修	・教職員が児童一人ひとりの課題を共有しているか。 (職員アンケート)	職-⑮「児童理解」100%【100%】	A	・職員会議を中心に、生徒指導上、共通理解が必要な事項について情報共有している。より、質を高めるために、「生徒指導共有共通シート」への記入を試行している。	
3 体を鍛える児童の育成	運動への親しみ、楽しさの体験 ・体育の授業の充実(質と量向上) ・体力づくりのために、チャレンジランキング、ロケット体操の体験、縦割り遊びを奨励する。	・自分の体について知り、進んで運動しようとしているという回答80%(児童、保護者、職員アンケート) ・運動会での学校評議員・来賓評価	児-⑰「外遊び」82.6%【80%】 保-⑱「運動」90.7%【90.6%】 職-⑱「外遊びや運動」100%【94.7%】	A	・アンケート結果から外遊びをする児童が増えている。要因として、放課後、保護者からの外遊びを行っていることに加え、美作大学の学生の来校、新たに大縄大会の実施、一輪車や竹馬の充実が考えられる。	・外遊びの奨励やいろいろな運動の場の設定を、更に工夫してほしい。
	自己の生活を見つめ、心身ともに健康な生活を送ろうとする態度の育成 ・保健だより ・保健指導 ・朝食摂取の大切さの啓発と「生活習慣・メディアコントロール調査」の実践・回収率のアップ	・朝食を食べているという回答90%以上 (児童、保護者)	保-⑲「早寝早起」81.5%【84.9%】	B	・体育の授業を中心に「挑戦課題」を設定し、楽しい授業に取り組んできた。休み時間に鉄棒や縄跳びなどを練習する姿も見られている。	
	正しい食生活の習慣化 ・好き嫌いのないバランスの取れた食事の大切さの啓発企画や指導	・好き嫌いのない食生活を送っている児童80%以上。(職員アンケート)	職-⑲「好き嫌い」88.9%【83.3%】 児-⑲「給食好き嫌い」81.3%【78.9%】	A	・野菜・牛乳を中心とした残食に課題があり、「一口でも食べる・飲む」を合い言葉に再度指導を徹底している。	
	研修、自己研鑽、自己変革 ・授業公開を通じた指導力の向上 ・日々の実践交流	・授業公開や日々の実践交流で教師自身の授業改善がなされているという回答が80%以上。(職員アンケート)	職-①「一小時習」100%【100%】 職-②「授業改善」100%【94.7%】	A	・「体育」「非認知能力」を2本柱として研修を進めてきた。外部講師を招請し、土台を築き、教員間に取り組むべき意識が定着しつつある。	どの子もわかる・できる授業を今後も取り組んでほしい。
4 職員	保護者との良好な人間関係作り ・日常的な教育相談 ・電話等の対応 ・細やかな連絡、共通理解 ・組織的な対応	・教職員の対応は誠実に細やかに行われているかという回答が90%以上。(保護者アンケート)	保-⑯「困ったとき」86.1%【80%】	B	・保護者との連絡を密に取ったことで、アンケート結果も向上している。来年度は家庭訪問を行い、更に保護者との良好な人間関係作りを進める。	
	家庭教育の充実を図る ・生活3カ条の実践 ・家庭学習の手引き、活用徹底 ・メディアコントロール週間(中学校区) 学期1回、年間3回実施	・家庭学習が学年に応じたため(時間、内容)を達成しているという回答が70%以上。 (児童、保護者、職員アンケート) メディアコントロール週間の集計結果	職-⑲「家庭学習時間・内容」100%【88.9%】 児-⑲「家庭学習」76.3%【76.3%】 保-⑲「家庭学習」56.5%【50%】	B	・家庭学習にかかわる評価が保護者・職員共に少し向上した。しかし、クローズドブックの持ち帰りが増え、目的外使用という課題も生まれている。	家庭学習の項目がやや低いのが、宿題や自主学習をしている児童は多い。みまチャネルなど学校の様子がよくわかる。これらも保護者や地域とつながりつつあった。
	学校教育への家庭・地域の参画を促す ・各校たよりの発行による啓発 ・地域、保護者の学校行事への参加を促す。 ・学校支援ボランティア等地域の人材活用 ・学校運営協議会設立準備 ・トライアングルみまが保幼小中連携 ・クローズドブック活用(参観日)	・学校のようすがよくわかり、行事等に参加しやすいという回答が90%以上。(保護者アンケート) ・地域の人材活用が有効に行われ、充実しているという回答が80%以上。(職員アンケート)	保-⑲「便利通信・参観日行事」82.4%【83.7%】 職-⑲「地域人材」94.8%【83.3%】 職-⑲「チャイム」89.5%【94.7%】	B	・コロナ禍があつて、少しずつ地域の方に協力頂くことができた。「餅つき」「卒業式へ向けての花の寄せ植え」「湯島温泉・温泉旅館の見学」「水生生物調査」「調理実習」「裁縫実習」等を行うことができた。	
	児童・職員の生命をまもる ・施設、設備管理 ・安全点検の実施 ・コンプライアンス研修	・安全点検により施設設備の管理が十分行われているか。(職員による安全点検結果、職員アンケート) ・定期的なコンプライアンス研修 ・不祥事の発生率0% 危機意識の向上	職-⑳「安全点検・施設・設備」100%【100%】	A	・避難訓練については「不審者対応」において、夏季に職員事前研修を行い、対応を見直して訓練を行った。	・下校時の集合でも指導されているが、地域の見守りも協力し安全な下校にしていきたい。 ・不審者訓練や避難訓練等、しっかりと取り組まれていく。
5 家庭・地域連携	児童・職員生命をまもる ・災害・事故・事件の予防と対応 ・避難訓練、不審者対応訓練の実施 ・交通安全教室、非行防止教室(警察との連携)の実施 ・組織的な登下校指導と家庭・見守り隊等地域との連携	・安全教育の指導は、校内外において、課題に即した内容で有意義に行われているか。(職員アンケート)	職-⑳「避難訓練」100%【100%】 職-㉑「登下校」100%【100%】	A	・毎月1回、コンプライアンス研修を行ってきた。	
	6 学校安全					